

—東都文京病院 2015 年の夏—

猛暑の日が続き、熱中症で救急搬送される人が増加しています。特に高齢者と児童・乳幼児は体内の水分を調節する力が弱く体調を崩しやすいので注意が必要です。暦の上では立秋を迎えましたが、暑さはまだしばらく続くと予測されています。環境温度の調節、十分な水分摂取と休息を心がけましょう。

さて、東都文京病院は、新たな看護師・助産師の入職により、看護局が強化され、7月に分娩室をリニューアルして、「病院内家庭出産」を支援する体制が整えられました。

さらに、入院患者数の増加に対応して、8月1日より2階を産婦人科・外科系、3階を内科系の2病棟体制としました。病院再建の歩みは、着実に前進しています。

また、東都文京病院の新病棟建築設計案が大手建築設計事務所数社より提出され、担当する建築設計事務所の選定が進められています。現存病棟の東側隣接駐車場の土地に新病棟が建設され、東京オリンピックの開催される2020年頃に完工の予定です。

一方、高齢化社会の到来による疾病構造の変化に対応するために、医療行政では二次医療圏ごとの地域医療計画策定の作業が始まりました。地域における自施設の役割を再認識し、設備と人員を十分に活用した実績を残すことが求められます。医師、看護師・助産師、コメディカルスタッフ、事務職等、病院の体力である人材を育成・増強し、3病棟をフルに稼働させることが、「地域医療計画」「新病棟建設」に繋がります。地域の医療連携ネットワークの一員として、病院全職員が一丸となり、一層の努力を続けていきたいと思っております。皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

2015年8月
病院長 杉本充弘